

リチウムイオン蓄電池の事故発生状況

品名	受付日	事故日	事故内容	被害状況	事故原因	再発防止措置	使用期間
バッテリー(携帯電話用)	20070612	20070509	充電が完了し、携帯電話機から取り外して置いてあった電池パックが、「パーン」という音とともに発煙、発火し、カーペット、カーテン、マットレスの一部を焼損した。	拡大被害	リチウムイオンバッテリーのセル缶に、外的応力による凹みが複数確認され、電極板に短絡痕が認められることから、被害者の使用中、バッテリーに外部応力が加えられたため、バッテリーが内部短絡を生じて熱暴走となり、異常発熱し破裂したものと推定されるが、使用状況等が不明であるため、外部圧力が加わった原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	約11か月
バッテリー(携帯電話用)	20070329	20070221	胸ポケットに携帯電話機を入れていたところ、突然電池パックが破裂し、スーツに穴があき、胸がヒリヒリするようになった。	拡大被害	製造工程で、製造治具がリチウムイオンバッテリーの負極板と接触し変形させたため、正極板との間に絶縁シートが損傷。さらに、充放電による膨張及び電池ケースに対する外力の印加により絶縁シートが破れ、負極板と電池ケースが短絡して異常発熱し、破裂に至ったものと推定される。	携帯電話会社とともに平成18年12月8日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、良品との交換を行っている。また、極板・絶縁シートを巻く装置を改善し、電池ケースと電池端部との間に絶縁用サイド保護テープを巻くよう変更している。	約1年
バッテリー(携帯電話用)	20070329	20070205	充電中に携帯電話本体が発熱しているように感じていたところ、異音が生じて発煙、発火した。	拡大被害	リチウムイオンバッテリーパックのセル缶に外的応力による凹みが認められたことから、被害者の使用中に何らかの外的応力がバッテリーに加えられたため、熱暴走を生じて異常発熱したものと推定されるが、使用状況等が不明であることから、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。なお、取扱説明書には「釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしない、電池パックを漏液、発熱、破裂、発火させる原因になる」旨を記載している。	約1年7か月
バッテリー(携帯電話用)	20070207	20061226	携帯電話をバイクのシート下の荷物入れに入れておいたところ、一緒に入れていた上着が焦げた。	拡大被害	バッテリーパックのリチウムイオンバッテリーが変形し焦げており、セル缶に外的応力による凹みが複数認められたことから、被害者の使用中に外的応力がバッテリーに加えられたため、熱暴走を生じて異常発熱したものと推定される。	被害者の不注意とみられる事故であるため、措置はとらなかった。なお、取扱説明書には「携帯電話に無理な力が掛かるような場所に置かない。」「多くの物がつまった荷物の中に入れていたり、衣類のポケットに入れて座ると、液晶画面、内部基板などの破損、故障の原因となる。」旨を記載している。	約9か月

品名	受付日	事故日	事故内容	被害状況	事故原因	再発防止措置	使用期間
バッテリー(携帯電話用)	20070207	20061219	携帯電話をガス温風ヒーターのそばに置いていたところ発火し、カーペットと衣服に着火して腰に軽い火傷を負った。	軽傷	被害者が、携帯電話を温風ヒーターの吹出口付近に置いたまま放置したため、吹き出した温風により、リチウムイオンバッテリーが加熱され、熱暴走し、破裂・焼損したものと推定される。	被害者の不注意とみられる事故であるため、措置はとらなかった。なお、取扱説明書には「火のそばやストーブのそば、高温の場所での使用、放置などが原因で機器の変形、故障、電池パックの漏洩、発熱、破裂、発火、性能や寿命の低下の原因となります。」の旨を記載し、注意喚起を行っている。	約1年
バッテリー(携帯電話用)	20070207	20060704	携帯電話を充電中、電池部分が熱くなったので取り出したところ、指に火傷を負った。	軽傷	携帯電話及びリチウムイオンバッテリーに発熱等の痕跡は認められず、機能、性能も正常であったことから、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	約2か月
バッテリー(携帯電話用)	20070207	20051016	携帯電話でテレビ電話機能を使用中、本体の電池パック部分が発熱し、指を火傷した。	軽傷	携帯電話及びリチウムイオンバッテリーに発熱の痕跡は認められず、機能、性能も正常であったことから、火傷に至った原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	約8か月
バッテリー(携帯電話用)	20070207	20050608	携帯電話機をワイシャツの胸ポケットに入れていたところ、脇腹あたりが熱くなり、火傷のようになっていた。	軽傷	携帯電話及びリチウムイオンバッテリーに発熱や熱変形等の異常は認められず、機能、性能も正常であったことから、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。	約1年
バッテリー(携帯電話用)	20061212	20061116	携帯電話を充電後、1時間もしないうちに、本体から煙が噴出して電池が破裂し、鞆や床が焦げた。	拡大被害	製造工程で、製造治具がリチウムイオンバッテリーの負極板と接触し変形させたため、正極板との間にある絶縁シートが損傷。さらに、充放電による膨張及び電池ケースに対する外力の印加により絶縁シートが破れ、負極板と電池ケースが短絡して異常発熱し、破裂に至ったものと推定される。	携帯電話会社とともに平成18年12月8日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、良品との交換を行っている。また、極板・絶縁シートを巻く装置を改善し、電池ケースと電池端部との間に絶縁用サイド保護テープを巻くよう変更している。	約1年
バッテリーパック(ノートパソコン用)	20061031	20061024	ノートパソコンの電源を切った状態で充電中に、電池パックが発熱し、火花が出て1人が軽い火傷を負った。	軽傷	リチウムイオン電池の製造工程中で何らかの微少な金属異物が混入したため、電池内部で短絡が生じて火花が出たものと推定される。	平成18年10月20日より、ホームページに社告を掲載し電池パックの回収・交換を無償で行っている。	約7か月

品名	受付日	事故日	事故内容	被害状況	事故原因	再発防止措置	使用期間
ポータブルCD/DVDプレーヤー	20061027	20061012	DVDプレーヤーにバッテリーを装着し、ACアダプターを接続した状態で使用していたところ、発煙したので本体をテーブルから払いのけた。落下した際に、本体から電池パックが外れ、電池パックの一部が破損して床のカーペットの一部を焦がした。	拡大被害	当該品のバッテリー(リチウムイオンポリマー電池)の電池セル内で短絡・発熱し、発煙したものと推定されるが、セル部分の損傷が著しいことから、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。なお、電池セル及び電池パックの製造工程で異物混入や傷防止対策の強化を図るとともに、電池パック製造工程での充放電エージングを強化し、充電中の電池セル温度監視工程を追加した。	約1か月
バッテリー(リチウムポリマー電池、ラジコン用)	20060913	20060725	リモコンに使用するバッテリーが充電開始約40分経過後に発火し、火災に至り、男性が軽傷を負った。	軽傷	バッテリーは3セルの組電池であり、そのうちの1セルが回収されたものの、発火したと思われるセルが回収されず、また、同等品について過充電試験を行ったが異常は確認されなかったため、原因の特定はできなかった。	事故原因が不明であるため、措置はとれなかった。なお、取扱説明書の内容を検討し、バッテリー(リチウムポリマー電池)の充電方法及びバッテリーの危険性について、従来よりも分かり易い表示の改善を行った。	約2か月
ノートパソコン用バッテリー	20060410	20060408	ノートパソコンを操作中、突然、煙と火花が発生し、バッテリー付近が焼損した。また、消火の際に右手に火傷を負った。	軽傷	リチウムイオンバッテリーの製造段階で、セル内部に金属粒子(微細破片等の異物)が混入したため、ノートパソコンの使用中に、過熱し発火したものと推定される。	平成18年8月25日付けで、自社のホームページに社告を掲載し、製品の回収・交換を実施している。	約1年
充電電池(リチウム電池)	20051115	20051113	2階建てガレージの2階から出火し、床など約0.8平方メートルを焼いた。事故当時、ラジコン用のバッテリーを充電していた。	拡大被害	消防の調査では、バッテリーを長時間充電したことにより、出火したものとみている。	製造業者等は不明であり、被害者の不注意とみられる事故であるため、措置はとらなかった。	約6か月
リチウムイオン電池(デジタルカメラ用)	20051102	20050810	デジタルカメラ(一眼レフ)の充電中、バッテリーが発熱し、バッテリーケースの変形及び液漏れを生じた。	製品破損	当該品の製造工程で、電池内部の負極タブが正規位置とは異なる位置に溶接され、その際の溶接痕が正極板に接触・短絡したため、発熱・漏液したものと推定される。	平成17年11月9日付け新聞紙上及びホームページに社告を掲載し、バッテリーの回収・交換を無償で行っている。	約6か月
カメラ	20051101	20051006	カメラのメインスイッチを入れたところ、急に発熱・変形し、煙が出た。	製品破損	ストロボ充電回路に並列接続で用いられているトランジスタが故障した際に、熱暴走し発熱したため、外郭樹脂の一部が熱変形したものと推定される。なお、電源のリチウムイオン電池の性能の向上(初期電圧の上昇、内部抵抗の減少、パルス放電電流の増加等)が、トランジスタの故障に影響していることも考えられる。	平成18年2月21日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行い、外装変形に至らない過熱防止対策を施すこととした。	約12年10か月

品名	受付日	事故日	事故内容	被害状況	事故原因	再発防止措置	使用期間
ノートパソコン用バッテリー	20051031	20051006	ノートパソコンのバッテリー部分から発煙し、机に焦げ跡ができた。	拡大被害	製造時、バッテリーパック(リチウムイオン電池6本)の電極体巻き取り工程で、6本中1本の電池に微小なステンレススチールの粒子が混入したため、セル内で内部短絡が発生し、局所的に発熱・発煙したものと推定される。	平成15年6月生産分より、今回短絡発生した当該部位には絶縁テープを貼り付け、異物が介入した場合においても内部短絡を起こしにくい設計を導入している。	約2年6か月
カメラ	20051007	20051006	カメラで撮影しようとしたところ、煙と火が出た。	製品破損	ストロボ充電回路に並列接続で用いられているトランジスタが故障した際に、熱暴走し発熱したため、外郭樹脂の一部が熱変形したものと推定される。なお、電源のリチウムイオン電池の性能の向上(初期電圧の上昇、内部抵抗の減少、パルス放電電流の増加等)が、トランジスタの故障に影響していることも考えられる。	平成18年2月21日付けの新聞及びホームページに社告を掲載し、無償で修理・点検を行い、外装変形に至らない過熱防止対策を施すこととした。	約13年